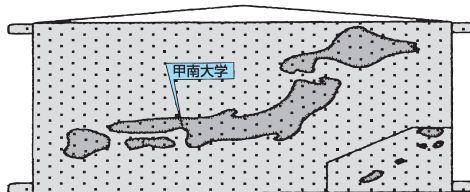


# Zephyr

〈第79号〉

ゼフィール・にしかぜ



<https://www.konan-u.ac.jp/kilc>

《特集＊言語表現に見る文化の諸相》

|  |                    |   |
|--|--------------------|---|
| ★所長からのメッセージ：井戸に因む言語文化 .....  | 金 泰虎 .....         | 2 |
| 〔英 語〕 How Is Canadian English Different from American English? ..... | Stanley KIRK ..... | 3 |
| 〔ドイツ語〕 言語表現と異文化間コミュニケーション .....                                      | 藤原三枝子 .....        | 4 |
| 〔フランス語〕 フランス語の成句と諺（ことわざ）について .....                                   | ディディエ シッシュ .....   | 5 |
| 〔中国語〕 日本語と中国語の漢字表現に見る諸相 .....  | 胡 金定 .....         | 6 |
| 〔韓国語〕 肩書の名称や呼称からみる韓国文化 .....   | 金 泰虎 .....         | 7 |
| 〔日本語〕 連体形が文を終止させるという日本語の不思議な言語現象 .....                               | 谷守 正寛 .....        | 8 |

甲南学園創設者

平生鈞三郎

「世界に通用する

紳士・淑女たれ」



「英語＋1（第2外国語）」  
教育プログラム

「使える外国語教育」

国際言語文化センター機関紙（年3回刊行）

## 「雨はお嫌いですか？」

2021年度の授業も対面で始まったものの、再びオンラインに戻ってしまいました。学生にオンライン授業の利点を聞くと「朝早く起きなくてもいい」とか「大雨の日に自宅から学習できてありがたい」などの意見が出てきます。雨と言えば、今年は梅雨入りが例年以上に早くなりましたが、毎年この梅雨の時期になると思い出す学生時代のエピソードがあります。雨の日の会話の授業でイギリス人の先生が、学生に“Do you like rain?”と質問しました。ある学生が“No, I don't like rain.”と答え、先生は“So, you don't like rain, do you?”と念を押すのです。その学生は「はい、そうです」のつもりで、つい“Yes.”と答えました。すると先生はユーモラスに“Yes?! You said 'No!'”と続けたのです。この付加疑問文はなかなか厄介で、日本語では叙述内容全体に対して「はい」「いいえ」で答えるのに対し、英語では動詞の表す内容に対して Yes, No で返答するのです。

いろいろな言語に興味をもつ中で、この付加疑問文の答え方について調べたことがあります。ドイツ語は基本的に英語と同じ答え方をしますが、ロシア語は日本語式です。どの言語が英語式か、あるいは日本語式か、またそれはなぜか、など調べていくと面白いのですが、大切なのはそうした表面的な言語形式だけではなく、この付加疑問には「予想とは反して驚いた」とか「本当にそうなの」といった話者の心的態度が表れているということでしょう。

今回の『ゼフィール・にしかぜ』は「言語表現に見る文化の諸相」のテーマの元、各言語の先生方が興味深いエッセーを寄稿してくださっています。言葉と文化のもつ奥深い世界を楽しんでいただることを願っています。

（野村 和宏）

# 井戸に因む言語文化

国際言語文化センター所長 金

泰 虎

飲み水は人間生活の営みの中でなくてはならないものです。前近代の日韓社会では、飲み水の供給源として主に井戸を活用していました。近代化と共に都会を中心に水道管が張り巡らされ、今や各家庭の室内で蛇口をひねれば飲み水が出てくるのが当たり前の時代になっています。

文明の発達により飲み水の確保が便利にはなっていますが、水道水が供給される以前、飲み水を提供する役割を果たした井戸に関わる文化については、特に注目されてきませんでした。しかし、今日の生活の中には、前近代の井戸に関わりをもつ言語文化が残されています。以下では、井戸から生まれた日韓の言語文化について述べたいと思います。

日本社会では水道が普及していなかった時代、主に生活の飲み水は井戸が支えていましたが、実に20世紀初頭までも井戸水に頼る傾向が強かったのです。しかし、各家庭の屋敷に井戸を掘り、飲み水を確保できる状況ではありませんでした。ほとんどの家庭は井戸を持たず、敷地に井戸を持っていたのは上位階層や富を積んでいた人だけでした。多くの家庭は村や地域が管理する共同の井戸を使い、飲み水を確保していました。これは昔の住宅地跡の発掘から判明しており、また富を積んだ近江商人が屋敷に井戸を掘っていたことは現存する屋敷からわかります。

この共同の井戸を使用するという環境のもと日本社会では「井戸端会議」という言葉が生まれたのです。その意味は、井戸端で近所の女性たちが水を汲みにきて、あるいは洗濯をしながら世間話や人のうわさ話をすることです。女性たちのおしゃべりの場である井戸端には、数人が集まっていたので個人の屋敷にある井戸とは考えにくいのです。共同の井戸を利用する生活文化がほぼ消えている今でも女性が集まっておしゃべりをするをもち「井戸端会議に花を咲かす」というような言い回しが受け継がれています。これだけではなく井戸が共同使用であるがゆえに、悲しい出来事も起きていました。歴史を振り返ってみると、事実の関係は兎も角、共同の井戸に毒を撒いたということで人を逮捕することがありました。共同で使う井戸に毒を入れるということは、不特定多数の人々の命を奪うことに繋がる大事件です。つまり、井戸が社会における出来事の現場としても注目を浴びました。



浮世絵：井戸端会議

一方、韓国社会でも水道水が提供されるまでは日本の前近代とほぼ同じく、とりわけ1970年代の高度成長期に突入するまで田舎では共同の井戸を使っていました。共同の井戸を使っていた実情を間接的に表す「北青水商人 (북청 물장수)」という言葉が伝わってきています。この「北青水商人」は「国境の夜 (국경의 밤)」という詩の中にまで引用されています。ここでの「水商人 (물장수)」とは飲み屋などで水商売をする人ではなく、水道が普及されていない時代に水を汲んで各家庭に配達することで生計を立てた商売の人を意味します。この「北青」は、今の北朝鮮の咸鏡道北青郡の地域を指しており、「北青水商人」は近代国民国家成立期に北青郡から上京し水を汲んで各家庭に配達して子供を立派に育てたという成功談がその背景にあります。さらに、1955年に発表された流行歌の「ゆすら梅の少女 (앵두나무 처녀)」では、村人が共同で井戸を使っていたことが如実に表れています。この歌は「ゆすら梅の傍にある井戸端で村の少女たちが話し浮気心を抱き、水を汲みにきた壺や農作業用の草取り鎌を投げ捨てて、噂で聞いたソウルへ…」という内容の下りにつづられています。村の少女たちが浮気心を起こし、ソウルに逃げる決心をする話をしていた場所が井戸端なのです。つまり、少女たちが集まる「ゆすら梅のある井戸端」は個人の家ではなく、日本と同じく村共同の井戸端です。

要するに、近代化以前における共同で使う井戸にまつわる文化について、日本では「井戸端会議」という言葉、そして韓国では詩や流行歌の中で、その一端を窺うことができます。前近代の日韓社会では共同の井戸で水を汲んだり、洗濯をしたりすることを媒介に井戸にまつわる言語文化が発生しています。今は井戸端で女性たちがおしゃべりをする光景は見る影もありませんが、それに関わる言語文化だけは残されています。

# How Is Canadian English Different from American English?

国際言語文化センター准教授 Stanley KIRK

Japanese people often ask how Canadian English is different from American English. This is an interesting question because, although Canadian English is close to standard American English, it still has some unique characteristics. Some of these characteristics come from the influence of British English and the French Canadian language and culture. The French were the first Europeans to permanently settle in Canada but were later defeated by the British. Yet, the language and culture of the French Canadians continues to have an important influence on English Canadian language and culture.

After the American Revolution, many Americans who were persecuted for loyalty to England escaped to Canada. They were the first big wave of American immigrants to Canada, and even now many Americans continue to move to Canada. Also, through the Internet and mass media, Americans are strongly influencing Canadian English and pop culture. However, Canadian English still has some expressions that distinguish it from American English. Some instances of this can be found in Canadian English slang and other common expressions. Let's look at a few examples:

1. **Eh?**: This very common Canadian English expression is believed to have come to Canada with the earliest English immigrants. It is usually used at the end of statements and has various nuances, the most common being "isn't it?" or "right?" ("It's a nice day, eh?"). This nuance reminds me of the Japanese word "ne" (いい天気ですね). If you meet someone who often says "eh?", you can be almost sure she or he is a Canadian.
2. **A Canuck**: This is slang for "a Canadian." There are various theories about its origin, but it used to be commonly used by Americans to refer negatively to French Canadians. Now it refers to Canadians generally, and many Canadians proudly call themselves "Canucks." In fact, Vancouver's professional ice hockey team is called the Vancouver Canucks.
3. **The loonie and the toonie**: Unlike the US, Canada has a one-dollar coin and a two-dollar coin. The one-dollar coin is called "the loonie" because on one side it has the image of a loon, a kind of duck. The two-dollar coin was produced later and soon came to be called "the toonie", combining "two" with "loonie." So, don't be surprised if you are in Canada and your friend asks you, "Could you lend me a loonie for the vending machine?"
4. **A klick**: While the US uses *miles* to measure distance, Canada uses *kilometers*, and we often use the expression "klicks" as a casual slang for kilometers ("The next town is just ten clicks away."). This is much easier to say than "kilometers," especially on a cold winter day in Canada!
5. **Serviette**: In Canada, this word means what Americans more commonly call a *napkin*, that is, a piece of cloth or paper that you use to clean your fingers and lips after eating. It was originally borrowed from French and is used mainly in British and Canadian English.
6. **Tuque**: This is a soft knitted cap worn for warmth during winter. It also entered English from French, where it is spelled *toque*.
7. **Dep**: This is a casual abbreviation of the French word *dépanneur* which means convenience store in the French Canadian regions of Canada. It is now also used in English Canada ("I'm going to the dep to buy some snacks.")

If you plan to study or work in Canada, how about learning some common Canadian slang words? You can find many more examples on the Internet. You will not only have fun using them in conversation but will also come to understand Canadian English and culture more deeply.

# 言語表現と異文化間コミュニケーション

国際言語文化センター教授 藤原 三枝子

社会生活の中でコミュニケーションはとても大切ですが、発話意図を互いに理解し合うことはそう簡単ではありません。とりわけ異文化間でのコミュニケーションでは誤解が起きることがよくあります。それは、言語行動も文化によってかなり異なるからです。ドイツ語語用論関連の授業で学生たちに、次のようなシチュエーションを想定して考えてもらいました。「隣人があなたにメロンをプレゼントしてくれました。あなたはそこで丁寧にお礼を伝えました。数日後、その人に路上でばったりと出会いました。再度、お礼を言いますか？1週間後、パーティーで再会しました。その時はどうでしょうか？立場を代えて、あなたがメロンをプレゼントしたとします。数日後、偶然に会った隣人から「先日はありがとうございます」のお礼が聞かれなかった場合、どのように感じますか？」学生たちの意見はかなり分かれます。何度お礼を言うのかは、もちろん個人差も大きいでしょうが、どうも文化差もあるようです。ドイツやスイスの友人たちとのお付き合いから、ドイツ語圏の文化では、プレゼントをもらったときにはどうも一度心から感謝をすればそれで良いのだろう、複数回の感謝は、「もう一度ください」というメッセージになる可能性がある、と感じています。それでも私は、「先日はありがとう」がないと、「気に入らなかったのかなあ」などと考えてしまいますが…。

この授業では、転居を知らせるはがきを扱うこともあります。転居のはがきの最後に「…どうぞ今後ともよろしく願いいたします。近くにおいでの際は、お立ち寄りください」という文言をよく見かけます。学生たちには、「皆さんが例えば秘書として、ドイツ語圏の上司にこの転居の通知を翻訳する場合、どのような点に気をつけますか？」と問いかけてディスカッションをしてもらいます。ことばに置く価値が日本と欧米文化圏では異なることを感じてもらうことが目的です。アメリカの文化人類学者、Edward T. Hallは*Beyond Culture* (1976) (邦訳『文化を超えて』)で、言わんとすることをすべて言語化せずに状況(文脈)から察してもらう「高文脈文化」と、伝達すべき情報はすべてことばの中にあると考える「低文脈文化」を区別していますが、スイスやドイツはかなりの低文脈文化、日本は顕著な高文脈文化のようです。転居通知の「どうぞよろしく」や「お立ち寄りください」を、低文脈文化の人にどのように伝えるかは、言語仲介能力の観点からおもしろいテーマです。

言語の橋渡しをする難しさについては通訳者として働いた時の苦い経験があります。私は20代半ば、当時は神戸三ノ宮の国際会館内にあったドイツ連邦共和国総領事館で仕事を始めました。その初日の仕事が、大麻所持で逮捕された若いドイツ人船員の取調べに通訳として同席することでした。この時、取調室で担当官が船員に語った「世間様に対して申し訳ないと思わないのか」という日本語をどのようにドイツ語に訳したらよいのか分からず、意図がうまく伝わっていないと感じながらも直訳することしかできませんでした。船員さんは、「自分の船はもうとくに神戸を離れてしまい、帰る日を伝えていた両親や恋人に対してはその約束を果たせず申し訳ないと思うが、これは個人的なことで世間とは関係がない」というような回答だったと思います。これに対して、取調官が「改悛の情なし」とコメントしたのを聞いて、とても慌てたことを思い出します。異文化間のやり取りで意図の仲介はたやすいことではありません。

日本の外国語(英語)の授業も、コミュニケーションが大前提で、そのために必要な言語知識を習得するという機能的な学習観に変わってきました。大学のドイツ語の授業でも、何を伝えようとするのかという発話意図を大事にし、コミュニケーションすることにより他者を思いやるような気持ちを育成したいと思っています。それにしても「世間様に対して申し訳ないと思わないのか」を、あの取調べというコンテキストで、どのようにドイツ語で伝えたらよいのか…。今でもときどき考えます。

# フランス語の成句と諺(ことわざ)について

国際言語文化センター教授 ディディエ シツシュ

特定の言語の成句と諺は、明らかに、その国の気質を反映しています。フランス語を学ぶと、フランスのアイデンティティと精神を反映する成句があることに気づきます。

フランスでは**食文化**が重要であるため、**食べ物と関係する成句**が多くあります。誰かに、自分のことだけを考えるように言うとき、「自分の玉ねぎのことを考えなさい」(Mêle-toi de tes oignons) と言い、「今の状態を変える望みはない」は、「にんじんは調理された」(Les carottes sont cuites)、悲惨な状況のとき、「豆の終わりだ」(C'est la fin des haricots) と表現します。「合意に達する」は「梨を半分に切る」(couper la poire en deux)、「嘘をつく」は「サラダを語る」(raconter des salades) です。

フランス人の主食はパンなので、**パンと関係のある成句**が豊富です。何かを安く買う場合、「パン一口の値段で何かを買う」(acheter quelque chose pour une bouchée de pain)、「お金を稼ぐ」は「パンを稼ぐ」(gagner son pain) と言います。「人にパンの味を失わせる」(faire passer le goût du pain) という表現は、「人を殺す」という意味です。フランス人は生きている限り、パンを食べているからです。また、善良な人のことを、「パンのように良い人」(bon comme le pain) と言います。

一方、フランス語の諺は、**日常生活の活動、人間社会の状況**にかかわるものが少なくありません。

- « La vérité sort de la bouche des enfants »  
(真実は子供たちの口から出てくる)：子供たちは純粋な心を持っているので、嘘をつくことがない。
- « Bonne renommée vaut mieux que ceinture dorée »  
(名声は金色の帯よりも優れている)：名声はお金より貴重なものである。
- « On ne fait pas d'omelette sans casser des œufs »  
(卵を割らないと、オムレツはできない)：結果を得るために、何らかの犠牲を払わなければならない。
- « Qui vole un œuf vole un bœuf » (卵を盗む人は、牛も盗む)：小さな物を盗む者は、大きな物も盗む。

17世紀の詩人で寓話作家の**ラフォンテーヌ (La Fontaine) の寓話が起源の諺**もあります。

- « Rien ne sert de courir, il faut partir à point »  
(走っても無駄、間に合うように出発しなければならない)。
- « Vendre la peau de l'ours avant de l'avoir tué »  
(熊を殺す前に、その皮を売る = 〈取らぬタヌキの皮算用〉)

また、人間社会の状況を理解させるために**自然現象を引き合いにだす諺**もあります。

- « Après la pluie, le beau temps »  
(雨が止んだら、天気がよくなる)：つらい思いをしても、それはいつまでも続くことではない。
- « Il n'est pire eau que l'eau qui dort » (よどんだ水ほど悪い水はない)：表面の穏やかな人こそ一番怖い。

フランスはキリスト教の伝統を持つ国であるため、特定の諺は**聖書に由来**します。

« Tu vois la paille qui est dans l'œil de ton voisin, mais tu ne vois pas la poutre qui est dans le tien » (隣人の目にあるチリを認めながら、自分の目にある梁を認めない)：他人の小さな欠点を批判しながら、自分の大きな欠点に気づかない」

これはイエスの言葉です。他の人を批判する前に、この諺を思い出すとよいでしょう。

# 日本語と中国語の漢字表現に見る諸相

国際言語文化センター教授 胡 金 定

中国古代の黄河文明で発祥した表語文字である漢字は四大文明で使われた古代文字のうち、現用される唯一の文字体系です。西暦 100（永元 12）年に後漢の許慎が作った世界最古の辞書『説文解字』は秦（前 3 世紀）以前の文字を広く収集し、基本となる 9,353 字を収めました。それから 2 千年以上経ち、2014 年版の『漢字海』に収められた漢字の字数は 102,447 字で、日本で作られた国字も含まれています。漢字はどんどん作られ、約 10 倍にもなりました。

漢字は古代から周辺諸国家や地域に広まり、漢字文化圏が形成されていきました。言語のみならず文化上にも大きな影響を与えてきました。20 世紀に入り、漢字文化圏内でも中国語と日本語以外は漢字表記を殆ど廃止しましたが、今なお約 15 億人が使用しています。

漢字は本来、1 漢字が一義を表す表意文字です。1 音節が 1 つの意味を表す孤立語的な言語構造に由来しています。正しく言えば、音と意味の両方を表記する表語文字です。つまり、1 字が 1 語を表しているのです。それぞれが個別の意味を持ち、音節に対応している形態素の漢字は、現代中国語になって、大部分の語彙が 2 つ以上の漢字を組み合わせたものになっています。

字体について、中国と日本では、漢字の数の多さと複雑さに対応するために、戦後にそれまで使用していた文字数を制限したり、漢字の字画を減少（簡略化）したりして、教育漢字、常用漢字の数量を規制するようにしました。日本と中国はそれぞれが独自の言語政策を取ったので、かつて『康熙字典』の字体を共通にしていた日中の漢字字体使用に変化をもたらしました。

日本は 5～6 世紀頃に漢字を本格的に輸入するとともに文字の使用が始まったと言われています。平安時代初期、漢字を日本語の発音で表記するために漢字の草体を元に平仮名が作られ、仮名に対して漢字を真名（まな）と呼びました。さらに、漢字の偏など一部を取って作り出された片仮名も含め、日本語は漢字、平仮名、片仮名を交えて表記する形式を採用しました。読み方は「音読み」と「訓読み」の 2 種類に大別されます。

現在の漢字は実質的な意味を表す語に、平仮名は主に活用語尾や助詞に、片仮名は主に外来語の表記に使われています。

幕末・明治時代に欧米諸国から入った事物などを日本語で表現するため、中国にないことば（二文字の語彙）を作り、日本語は更に表現を豊かにしました。

中国語と日本語の漢字について、一文字なら基本的に字義（意味）は同じです。例えば、「島（中）」と「島（日）」、「日（中）」と「日（日）」、「人（中）」と「人（日）」。「湯（中）」の中国語はスープで、「湯（日）」の日本語は熱いお水です。また、「本（中）」は中国語では冊で、日本語の「本（日）」は書籍と言う意味です。

2 つ以上の漢字を組み合わせると、派生義が生まれます。日本語の「勉強」は、辞書を調べてみると「将来のために学問や技術などを学ぶこと。学校の各教科や、珠算・習字などの実用的な知識・技術を習い覚えること。学習。また、社会生活や仕事などで修業や経験を積むこと。」とあります。一方、中国語の「勉強（miǎnqiǎng）」の意味は不承、不十分、無理などの意味を持ち、日本語とは全く違います。ほかにも、日本語の「妻子」は「妻と子」の両方を指しますが、中国語の「妻子（qīzi）」は（自分の）妻の意味です。

日本は中国にない植物、生物、地形などを漢字で表現するために、漢字の造字ルールのうち「会意」に倣って国字と言われる和製漢字（和字とも呼ばれる）を多く作り、使っています。例えば、峠（とうげ）、畑（はたけ）、辻（つじ）、榊（さかき）などは、主に訓読みのみですが、働（はたら）く、働（どう）のように音訓の両方があるものと、鋌（びょう）、鱈（こう）など音読みのみのももあります。「畑（はたけ）」のような国字は中国人なら皆持っている辞書『新華字典』にも収録されています。

ことばは生き物だと言われています。漢字は日本に入ってきた時、原義のまま日本で定着していく過程で意味が変わっていったケース、逆に、中国では意味が変化したが、日本ではそのまま使われている例、そして中国から「輸入」した時点で、日本で独自の意味を当てはめたことばもあります。

これから、中国語を学習する方には漢字の三要素「字形・発音・意味」に留意して、日中両言語で使っている漢字の字体、字義を区別し、学習効果を高めてほしいと思います。

# 肩書の名称や呼称からみる韓国文化

国際言語文化センター教授 金 泰 虎

人々は社会生活の中で様々な役割を果たしており、それに関わる肩書を用いています。この肩書は職務、職位、職名、役職、職階、つまり地位や役割を示すものです。特に、肩書は初対面の人の場合、所属の集団における役割を推測することができる機能を持っています。国や地域、あるいは文化圏によって程度の差はあるものの、肩書を付けない社会はないと言って過言ではありません。

以下では、韓国において教育に携わる人々、とりわけ大学教員に対する肩書の名称や呼称を中心に述べていくことにしたいと思います。

韓国では、日本と同じく大学の教員に対し「教授」という肩書を使っています。教授とは、動詞としては「教えを授ける」という意味です。一方、名詞としての教授は大学で教える教員の中で最高位の職階です。韓国の大学における職階は、教授、副教授、助教授、専任講師、助教、兼任講師（非常勤講師）で区切られています。これらとは別の枠で「碩座教授」という職制がありますが、日本の特任教授に該当します。

ところで、日本の大学における教授とは、文語体の名称であるイメージが強く、口語体としての呼称は先生とするのが一般的です。日本では名刺や書類などには教授という名称の肩書を用い、会話中の呼称の肩書は職階に関係なく「先生」という傾向です。つまり、名刺や書類に記す肩書の名称は職階、例えば教授なら教授、そして准教授なら准教授という肩書を使います。

しかし、韓国では日本と多少異なる肩書の名称や呼称が使われています。大学で教える教員の名刺の肩書には職階に関係なく教授という名称を書く傾向が強いです。このことは、教授という肩書を動詞として考えると間違いのない書き方ですが、名詞の職階として理解をする場合は、正しくないような気がします。日本の傾向とは異なり、韓国では呼称としても職階に関係なく教授という肩書を使います。つまり、韓国では日本の口語体と文語体によって異なる傾向の呼称や名称を包括する形でいずれも教授とするのです。

韓国でも日本と同様に「先生」という肩書の名称や呼称は存在しています。この先生という名称と呼称は教育機関の従事者だけではなく一般社会でも使われます。しかし、韓国の教育機関に限ってみると、先生とは幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教師、あるいは大学の事務職員を対象とする呼称として用いられます。

さらに、韓国では教授や先生という肩書の名称や呼称で終わりません。この名称や呼称に接尾辞の「任(님)」を付けて敬語として使います。この「-任」は日本語の「-様」の意味です。日本でも名称や呼称に「様」を付けるケースはありますが、「教授様」・「先生様」という言い方はありません。しかし、韓国では「任」を付けて「教授任(교수님)」・「先生任(선생님)」という肩書の名称や呼称として使います。とりわけ、大学教員に対して職階に関係なく学生は必ずと言って良いほど「教授任」という肩書の呼称を用います。韓国においても「任」を付けずに「教授」や「先生」というケースもありますが、それは目上の人が目下の教員を呼ぶ時に限ります。幼稚園から高等学校に至るまでの教員、そして大学の事務職員に対し、学生が日本のように「任」付けなしで「先生」と呼ぶことはありません。

ちなみに、韓国語における「任」付けの敬語は、他の肩書にも用いますが、全ての肩書に付けられるわけではありません。しかし、今世紀に入ってから、本来は「任」付けをしない肩書である大統領に付けて「大統領任」という呼称として用いる場合もあります。韓国の政治状況からみて強大な権力が集中している大統領職ではありますが、その名称と呼称に付ける接尾辞は敬語が乱れている現象と言えます。

このように、韓国と日本における大学教員に対する肩書の名称と呼称の相違は、韓国語の敬語の体系はもとより、韓国社会の根底に流れる儒教思想と「文治主義」（そもそもは科挙によって選抜された文人官僚による支配を意味）の思考が絡んでいると思います。文治主義には教育をする人（師）に頼り重んずる傾向が強く、そこで師を敬い、「君師父一体」という言葉まで生まれています。なお、社会的肩書の多さが「立身出世」ないしは偉い人だという儒教的考え方は沢山の肩書を記す雰囲気を作っています。これらの影響により韓国社会では教育者の肩書に対する名称や呼称のユニークさ、そして名刺や書物の中に記す経歴や肩書の多さという文化が生まれたと考えます。

# 連体形が文を終止させるという 日本語の不思議な言語現象

国際言語文化センター教授 谷 守 正 寛

現代語の「する」という動詞は古語では「す（為）」の連体形「する」であり、「来る」も古語「く（来）」の連体形であることから窺えるように、日本語の文終止が実は連体形で実現してきたという興味深い言語現象を取り上げ、その必ずしも解明されていない歴史的・言語学的経緯について、無意識で使っている日本語の言語現象に見られる言語文化の諸相の一つとして紹介します。

古来より終止形で文を終止させる表現はあったものの、連体形が文を終止させるという言語現象が歴史的に途中（鎌倉時代）から凌駕してきたのはなぜかというのが面白いところです。紙幅の関係上端的に言えば、それは古来より存在する係り結びによる構文が要因となっており、そのメカニズムが係り結びを体系化した本居宣長以来依然謎であるものの、一部首肯できよう先行理論によれば連体形で終わる句（連体句）と係り助詞「ぞ」の句が倒置されたものでしょう。「連体句+名詞句+ぞ」とは「～する某だ」という意味で、これが倒置されると「名詞句ぞ+連体句」となり、例えば「我が待ち恋ひし君そ 来ませる」（万葉集8-1523）とは「待ち焦がれていたあなたがお出でになった」という意であり、「来ませる」（来+座せ+る）、すなわち「お出でになる」の意の「来座す」の已然形に完了の助動詞「り」の連体形「る」が付いた格好で文が連体形で終止しています。すると倒置前は「お出でになった私の待ち焦がれていたあなただ」となり、筆者の既発表の論考（「主題と係り結びから見る日本語の体言文と用言文」『言語と文化』25（2021））の言述内容に限って述べると、これはそれだけの単純な倒置ではなく、この場合なら「あれは」といった主題が前提として示唆されていて、そこから上記の倒置された連体句（体言）が導き出されたと見ることができます。まさしく千年前の枕草子の「春はあけぼの」も同じく主題の「春」という概念から、「春＝あけぼの」でないという意味で論理的格関係にかかわらずもっとも述べたい「あけぼの」という体言が導き出されているわけです。「あれはお出でになった私の待ち焦がれていたあなただ」が英語の分裂文（cleft sentence）と同じ構造（It's you I've been awaiting that has come）になり、that 連体節が文末に来るように日本語では被修飾語が係り結びによって前置されて連体句で文が終止することになります。この倒置構造においてやがて文中の叙述句「～ぞ」が様々な要因で弱体化すると共に「が」が主格助辞として台頭し、そこに入れ替わりますが、それが文として安定して述べられるようになると残された文末の連体句がそのままになったというメカニズムです。この経過と現代に残る「～ハ～ガ～」文を対比させると次のような面白い構造が見えます。なお「我が」の「が」は属格を表しこの時期にはまだ主語として確立しておらず、「そ」は繫辞に相当する「ぞ」の元の形です。

- （あれは）来ませる 我が待ち恋ひし君そ / 春は（をかしき）あけぼの（ぞ）  
→（あれは）我が待ち恋ひし君そ 来ませる / 春はあけぼの（ぞ）（をかしき）  
→ あれは 待ち焦がれていたあなたが お出でになったんだ / 春はあけぼのが 趣深い  
→（比較）あ、あれは 人が 倒れている / これは ガスが 漏れている（に違いない）

上の主題「あれ」は「君そ来ませる」と論理的に同定できないように、「春＝あけぼのが趣深い」でもない点で論理的ではなく、これが日本語では一向にかまわないわけですが、比較文も同様に「あれ／これ」＝「人が倒れている／ガスが漏れている」という論理に立たないにもかかわらず自然に言えるように、「は」には西洋言語学で解析できない性質があることが分かります。未だ解決していないと見られる有名なウナギ文「僕はウナギだ」も同じメカニズムで解析すると面白いでしょう。次のように今度は係り結び構造を逆に戻してみましょ。

僕は ウナギぞ 食べたき（ウナギが 食いたい）→僕は 食べたき ウナギぞ（僕は ウナギだ）